

## 委 託 設 計 書

所 属 部 課 名		建設部 河川清流課							
部長	審議監	課長	補佐	補佐	補佐	主査	班	設計者	審査
委 託 名 称		六中雨水貯留池清掃業務委託							
委 託 場 所		松戸市千駄堀地先							
事 業 年 度		令和 8 年度							
委 託 価 格		1 時間あたり 一金、 円							

松 戸 市

設 計 概 要	テニスコート上面の清掃 一式
------------------	----------------

## 設 計 基 本 情 報

### 諸経費情報

単価世代	2026年 1月 1日 04:東葛飾
諸経費の工種	下水道施設維持管理(管路施設)
施工地域補正	共通仮設費：市街地(DID補正)(1) 現場管理費：市街地(DID補正)(1)
時間的制約状況	なし
週休2日補正	なし

松 戸 市

## 本 委 託 内 訳 書

費目	工種	種別	細別	単位	数量	単価	金額	摘要
		清掃工		時間				第 1 号内訳書参照

## 第 1 号 内訳書 清掃工

1 時間

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
高压洗浄車運転工	4 t 147 k w	日				第 1 号単価表参照
給水車運転工	4 t 132 k w	日				第 2 号単価表参照
普通作業員		人				
小計行						
諸経費		式	1			
計						

第 1 号 単価表

高压洗浄車運転工

4 t 147 k w

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
軽油		L	39			
運転手 (特殊)		人				
特殊作業員		人				
土木一般世話役		人				
高压洗浄車損料	4t 147 k w	時間				
計	1 日 当り					

第 2 号 単価表

給水車運転工

4 t 132 k w

1 日 当り

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
軽油		L	34.8			
運転手 (一般)		人				
給水車損料	4 t 132 k w	時間				
計	1 日 当り					

# 予定数量

作業時間	20時間
------	------

## 六中雨水貯留池清掃業務委託仕様書

### (総則)

第1条 本業務は、松戸市の指示により、雨水貯留池の清掃業務を本仕様書に定めるとおり実施するものとする。

### (一般的な事項)

第2条 作業に当っては、常に周辺住民及び通行車両等に不都合の生じないように配慮しなければならない。

2 作業は、日曜日・祝祭日を休止日とし、国民の祝祭日が日曜日と重複する時は、その翌日が休日となるため、この時は、作業を行わないものとする。

3 作業時間は午前8時から午後5時までとする。

4 前項に指定された作業の休止日であっても松戸市が必要と認める時は、作業を実施するものとする。

### (業務の範囲等)

第3条 清掃の対象は、六中雨水貯留池上面(テニスコート)とする。

### (作業の開始)

第4条 本業務は緊急を要するものであるから、松戸市の指示があった場合は、ただちに作業を開始できるよう常に留意すること。

### (その他)

第5条 作業箇所にて施設に破損、不等沈下、腐食等の異常を発見した場合は、すみやかに監督職員に報告すること。

# 雨天時における安全に関する特記仕様書

## 1 適用

- (1) 本特記仕様書は河川及び準用河川、水路、暗渠、雨水貯留池、ポンプピットの中（以下「河川等」という）で作業を行う工事等に適用する。
- (2) 「工事等」とは、工事以外の点検、清掃、除草等を含め、河川等で行う作業全般を総称したものである。

## 2 目的

集中豪雨等による急激な水位上昇の危険性を考慮し、河川等における工事等を実施する場合の安全確保について万全を期することを目的とする。

## 3 雨天時の作業中止等の検討

請負人（受託者）は、以下の標準的な中止基準を踏まえ、現場特性に応じた中止基準を設定すること。

- (1) 当該作業箇所または上流部に洪水または大雨の注意報若しくは警報が発表された場合。
- (2) 当該作業箇所または上流部に降雨や雷が発生している場合。

## 4 気象情報等の取得体制の強化と作業中止判断への活用

気象警報、注意報のみならず、降雨状況等のリアルタイムの情報について、現場においても速やかに取得できる体制を構築するとともに、当該情報を作業中止の判断に活用すること。

情報源については適宜確保すること。

## 5 作業員の退避行動等についての事前確認の徹底

集中豪雨が発生した際の作業員への情報連絡体制、退避行動等について、事前に十分確認すること。

## 6 安全管理計画の施工計画書等への明記

作成する施工計画書等において、以下の内容を安全管理計画として明記し、発注者（委託者）の確認を得るとともに、その内容について作業員への周知徹底を図ること。

ただし、発注者（委託者）が必要ないと認めたときは省略又は一部省略することができる。

### (1) 現場特性等の事前把握

工事等の着手前には、当該作業箇所に係る作業内容や現場特性をあらかじめ十分に把握する。

### (2) 工事等の中止基準・再開基準の設定

ア 標準的な中止基準を踏まえ、現場特性に応じた中止基準を設定する。

退避時間が長い、退避条件が厳しい、急激な増水が予想される、気象情報が入手しにくい、夜間工事等で天候の状態がわかりにくい等の特性がある場合は中止基準を強化する検討を行う。

イ 工事等の開始後は、中止基準を補完する情報も活用し、的確な中止基準を設定する。

気象情報、気象情報の変化、増水の予兆（水位・水勢の変化、濁水等）。

ウ 工事等を再開する際の基準も設定する。

### (3) 迅速に退避するための対応

工事等に着手する前には、作業員が安全かつ迅速に退避できるように、あらかじめ退避時の対応方策について、以下の点について具体的な内容を定めておく。

ア 退避手順の設定

事前に作業員が退避するルート、退避時の情報伝達方法等の退避手順を定めておく。

イ 安全器具の設置

現場特性に応じて安全器具等を設置する。

ウ 情報収集と伝達方法

適宜、気象等の情報収集を行い、状況を作業員全員に伝達し、危険性の早期発見・危機回避に努める。

エ 資器材の取り扱い

資器材については、必要に応じて流出防止策を講じておくとともに、作業員が退避する場合には、退避に支障がある資器材を存置し、作業員の退避を最優先する。

### (4) 日々の安全管理の徹底

工事等の開始前には、退避時の対応方策の内容等について作業関係者全員に周知徹底を図る。

# 案内図

Matsudo - Sewage Works Information System

